



With コロナ時代の室内緑化～社会インフラへの道

山下 容子

2020年、それは東京オリンピック・パラリンピックに沸き立つ活気に満ちた日本のはずだった。しかし、新型コロナウイルスの襲来により、事態は一変、大小さまざまなイベントが中止や延期となり、外出することさえも制限される日常が訪れた。当初は、見えざる敵をいかにして制圧するか、という視点で語られていたが、やがて人々は、コロナとともにどう生きるか、すなわち With コロナへと発想を転換し、感染予防に努めながら経済活動を行う道を選択。新しい生活様式なるものも定義され、通勤不要の在宅ワークが社会に溶け込む時代になった。パソコンと向き合いながら仕事をし、会議も飲み会もオンライン。在宅ワークはコロナ収束後の Post コロナ時代もそのまま定着する、との見方が有力で、オフィス面積削減を打ち出す企業も出てきている。

自宅がオフィスに一。私は今こそ、住宅の室内緑化の必要性に言及したい。

私は東京都議会議員として室内緑化推進に取り組んだ。パソコンやプリンターなどからはホルマリンやトルエン等の揮発性有機化合物 (VOC) が放出され、室内空気を汚染している。植物には VOC を吸収、分解して無毒化する化学的力があり、働く人の健康被害を防ぐためにオフィス内の緑化を進めるべきだと訴えた。そして東京都農業振興プランに、室内緑化という植物の新たな利活用の道が初めて記されるに至った。

住宅の室内緑化は、建築資材やパソコン等から放出される VOC による健康被害を防ぐことになる。また、植物の蒸散作用による打ち水効果は暑い時期の強い味方だ。タワーマンションの高層階では、屋外の緑のカーテンの設置は無理だが、室内の窓辺なら可能だ。室温上昇が抑制できればエアコンのフル稼働を防ぐことができ、室外機の温風によるヒートアイランド現象の緩和など、都市環境や地球環境への負荷も低減する。

そして世の中で室内緑化が進めば当然、生産者や植物産業全般が活気づく。花葉会会員が旗振り役となって住宅の室内緑化を推進してはいかがだろうか。

これまで室内緑化は観葉植物主流であったが、それだけではなく、日本古来のもの、耐寒性にすぐれたもの、花鉢等にも改めてスポットライトを当てる。また切花も、根は無くても命があり、植物としての働きは有する。一般住宅用として今一度、室内緑化植物の洗い出しをすることが望ましい。そして、植物の力を世の中にアピールすることも忘れてはならない。世間一般には、植物の力として「癒し」を挙げる人が多いが、花と緑の専門家である花葉会会員ならば、前述の化学的力や打ち水効果を説明することができる。

会員各位の行動により、世の中は変えられる。室内緑化を社会のインフラにする。そのために、共に力を合わせていくことができれば幸せだ。

花 葉

2020
NO.39

目 次

禁無断転載

私の提案 With コロナ時代の室内緑化～社会インフラへの道.....	山下 容子 (1)
愛知豊明花き地方卸売市場における鉢物の状況変化.....	福永 哲也 (2)
関西花き卸売市場での切花取引への影響.....	吉田 智 (8)
東日本大震災とその後の経営.....	平間 拓也 (12)
農業行政の最新情報.....	草間 祐輔 (16)
「種苗法」改正の動向について.....	平山 祐嗣 (20)
日の丸ブリーダーを目指して.....	古市 浩之 (24)
バイオフィリア室内緑化と LED 照明利用による植物マーケットの拡大.....	大林 修一 (28)
私と家業の回顧録.....	三浦 基彰 (32)
庭づくりを通して花のある豊かな暮らしを提案したい！.....	月江 成人 (36)
自叙伝抜粋 園芸研究サラリーマン.....	小黒 晃 (40)
表紙解説 <i>Cypripedium calceolus</i>	田中 桃三 (45)
花卉園芸学研究室レポート (松戸キャンパス) 研究室生活を振り返って.....	玉井 孝典 (46)
花卉園芸学研究室レポート (柏の葉キャンパス) 花卉園芸学研究室で学んだこと.....	大森 温 (47)
花葉会総会 (51) 新役員・新幹部略歴等 (54)	
会員名簿の追加と訂正 (58) 一般社団法人 花葉会 定款 要綱 (59)	